

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

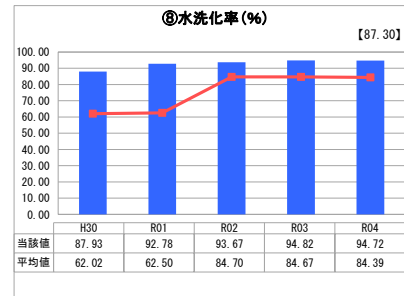
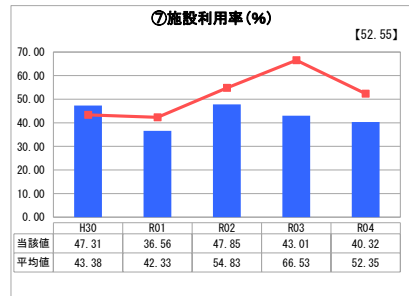
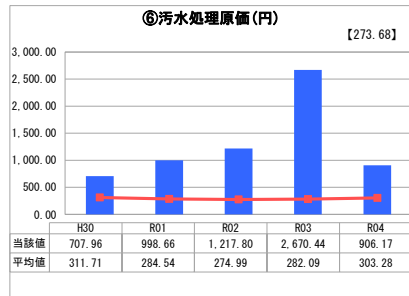
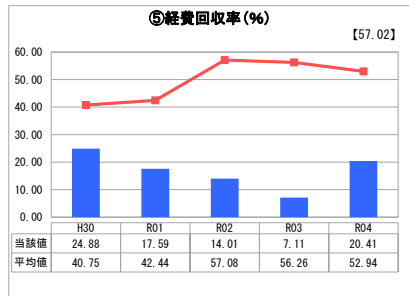
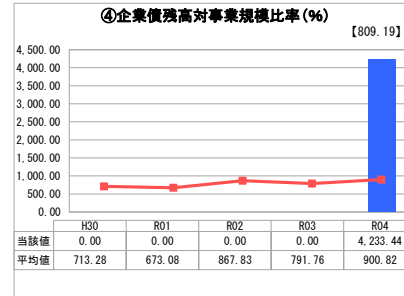
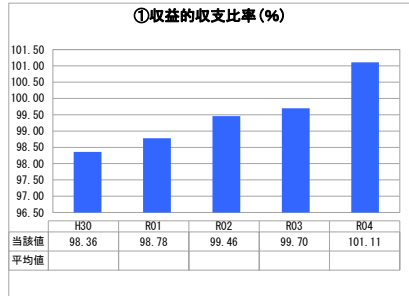
佐賀県 玄海町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	8.59	100.00	3,520

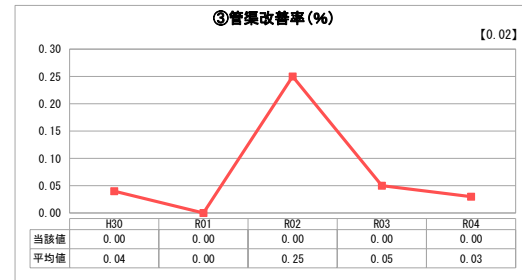
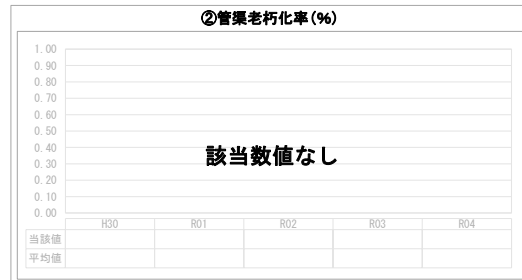
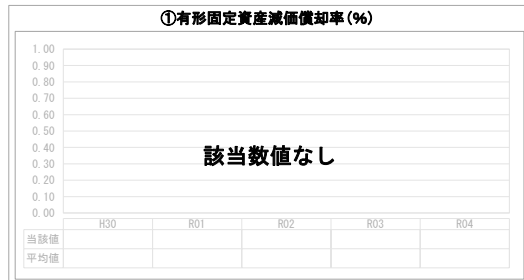
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
5,130	35.92	142.82
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
436	0.21	2,076.19

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経費回収率が、平均値52.94%に対し、20.41%と大きく下回っており、使用料のみでは経営が全く成り立っていない状況となっている。

汚水処理原価は、平均値303.28円に対し、906.17円と平均値を上回っており、有収水量に対し、維持費が過大に発生している現状である。しかし、昨年度と比較すると経費回収率及び汚泥処理原価は改善しており、その要因としては、汚水処理費の減（主に機器更新に関する減）が考えられる。また、人口減に伴い汚水処理量が減っていることが考えられるため、施設利用率が下がっている。

このため、例年一般会計繰入金に依存せざるを得ない状況であり、今後も続くと思われる。

経営の健全性・効率性を図るべきだが、使用料の増額は住民負担を強いるため、滞納者の増も懸念される。

現状としては、引き続き維持費を低減させるべく、計画的な修繕を行っている。

なお、令和5年度より公営企業会計に移行しており、令和4年度は当初決算となっている。

### 2. 老朽化の状況について

座川内浄化センターの併用開始が平成17年度、小加倉浄化センターの併用開始が平成18年度となっており、約19年経過している。

このため、計画に基づき修繕は実施しているが、間に合わず、施設のエラーなど多く発生している状況である。

今後も計画的に修繕を実施し、大規模な修繕を未然に防止することで、少しでも費用負担を減らすよう努めていく。

## 全体総括

人口減や施設の老朽化が進む中、今後も使用料のみでの経営は不可能である。

このため、使用料の改定、計画的な修繕を進めていき、広域化・共同化に向けても検討を進めているところである。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。